

5歳児 10月

～ひとやもの・こと、自分とのかかわりを広げる幼児教育～

もうすぐ運動会。S幼稚園では毎年、年長児が学級全員対抗リレーをします。9月になると毎日、園庭でリレーごっこが繰り広げられます。

走ることが大好きな年長のAくんは、赤組のアンカーに選ばれました。遊びの中でもAくんはアンカーです。バトンをもらって、ぐんぐん加速していきます。チームの友達の声援を聞きながら、ゴールテープを切る瞬間は最高の気分。自信もどんどんついてきました。しかし、その自信から周りが見えなくなり、友達の気持ちを思いやれない姿が見られるようになってきました。

先生は、そんなAくんの姿から、成長のチャンスを探っていました。

運動会前日、リレーごっこをしようと集まっている子どもたちに、先生が、「今日は、Aくん以外の人をアンカーになってみようよ。」と提案しました。すると何人もの友達が「やったあ。ぼくもアンカーやってみたかったんだ。」と喜びました。

一方、Aくんはアンカーになれない事態に戸惑い、自分の番に一生懸命走れませんでした。先生はAくんとじっくり向き合います。アンカー以外の人を恰好悪いと思っている自分について考えさせるために、そして、アンカーになりたいけれども、Aくんを認めて譲っている友達の気持ちと、友達みんなの走りがアンカーにつながっていることに気付かせるために。

黙って耳を傾けるAくん。

運動会当日。先生は、Aくんの母親から「クラスの友達に謝りたくて家で練習をしたこと」を伺います。開会式の時間が迫ってもなかなか話を切り出せずにいるAくんに、先生が「みんなに話があるんだよね。」と促します。二人のやりとりで気付いた子が「Aくんが、ぼくたちに話があるそうだ」と、クラスのみんなを保育室に集めます。

クラスの友達に、しっかり自分の思いを伝えたAくん。クラスの人達も、Aくんの気持ちと変容を受け止め、アンカーを任せました。

運動会を終えた次の週、園庭では、多くの子どもたちがリレーごっこを楽しんでいます。

アンカーになりたい気持ちいっぱいのAくんが、「ぼく、アンカーやってもいい？他になりたい人はいない？」と友達に尋ねる声が聞こえてきます。友達の走りを見て「○○ちゃん、前よりも速くなったような気がする」と、笑顔で言う声も聞こえてきます。

先生は、勝負の勝ち負けしか見えなかったAくんの、友達の気持ちや自分なりに懸命に走る友達のよさが見えるようになった成長を、心から嬉しく感じています。



小学校 1年生 5月

～新しい生活や先生に親しみを感じていく児童期のスタート～

これまで背筋をピンと伸ばして授業を受けてきたM子が、この時間は集中できていません。先生は「どうしてだろう。」と考えます。よく見てみると、朝、M子の髪に付いていた黒いピンがありません。先生は、M子に「黒いピンはどうしたの？」と尋ねました。「さっきの休み時間取れてしまったんです。せっかくお母さんがしてくれたのに。」とM子。「そう、ピンが取れてしまって気になっていたのね。先生が、お母さんの代わりに止めてあげようか。」と先生。M子はポケットからピンを取り出します。

先生は、M子の前髪にパチンとピンを止めました。

すると、M子の背筋が今まで以上に伸びました。話を聞こうと先生を見る目がますます真剣になりました。

先生は、M子をすぐに叱らずにいてよかったと思いました。



子どもの学びをつなぐ

「学びの基礎力の育成」を目指している幼稚園教育と小学校教育の目標は共通です。しかし、「学びの芽生えの時期」と「自覚的な学びの時期」という子どもの発達の違いから、「遊びの中での学び」と「各教科等の授業を通じた学習」というように、教育活動に大きな違いがあります。

そのため、教師が「幼稚園は子どもを遊ばせているだけではないか」「小学校は指示が多く、幼児期に育んだ子ども一人一人の自主性を生かしていないのではないか」など、互いの教育活動について指摘し合うことがあります。

大切なのは、交流活動や合同研修などの連携を通して、互いの教育内容を理解し合い、互いの教育を充実させていくことです。

子どもの視点に立ち、子どもたちの成長感をつなげていきましょう。



香川県の幼児期の教育と小学校教育との連携

(H26 幼児教育に係る実態調査より H25 年度実績)

幼稚園の幼児と小学校の児童が
いっしょに交流している。

95.7 %
(157園/164園)

幼稚園と小学校の教師が意見
交換などの交流を行っている。

89.6 %
(147園/164園)

多くの幼稚園と小学校で、
交流活動や合同研修などの
連携が図られています。

幼児・児童の交流活動・教師の合同研修の様子



はじめましての会



ペアで活動しよう



グループになったの活動



日常的な交流



5歳児と3年生との交流



教師間での交流

子どもの主体的な活動としての遊び中心の生活

幼稚園 5 歳児

- 子どもの視点
自分で考えた課題をどのように自分で達成するか
- 教師の視点
「楽しむ、親しむ、味わう」など、幼児一人一人の発達に必要な経験を見通した援助



- ✿ 幼稚園で、精一杯 大きくなったよ。
- ✿ もっともっと いろんなことができるようになりたいな。
- ✿ 小学校での新しい生活は 不安もあるけれど楽しみだよ。

学びの芽生えの時期

自発的な遊びの中で



自主的に目標を持ち 友達と協力する

願いや目的の達成に向けて 創意工夫する

自分たちでルールを決め、守りながら 大勢の友達と遊ぶ。

友達とともに追求し 仲間への愛着をもつ

これまでできなかったことに挑戦する

葛藤やつまづきを 経験し自己抑制を学ぶ

役割を果たす中で



行事や当番活動に 率先して取り組む

年少の友達の モデルとなる

学級のみんで過ごす活動の中で



学級で共通の目的を見つけ、協同して取り組むことで、学級への愛着を感じる

相談したり、互いの考えに折り合いをつけたりしながら、学級やグループのみんでやり遂げる

自分のよさを認められて自信をもつ

生活全体の中で



言葉や数への関心が増し、生活の中で使う

言葉による伝え合いが活発になる

様々な人とかかわりや出会いを楽しむ

生活の中で言葉や文字を使う

子ども一人一人の 自信や成長感をつなぐ

教科学習中心の学習

小学校第1学年 4月

- 子どもの視点
与えられた課題に自分はどのように対処するか
- 教師の視点
「分かる、できる、気づく」など 知識や技能の習得を目指した指導



- ✿ 小学校って楽しい。
- ✿ 大勢の友だちと学習するのって、おもしろい。
- ✿ 新しい小学校でやっていけるよ。

自覚的な学びの基盤を育む時期

学校生活全体の中で



一人一人が自分のペースで 友達とかかわりを広げ、 学校生活へ安心感をもつ

学校の環境や使い方、 きまりを知り、慣れる

新しい先生へ 親しみを感じる

～友達とかかわりを広げるスペース

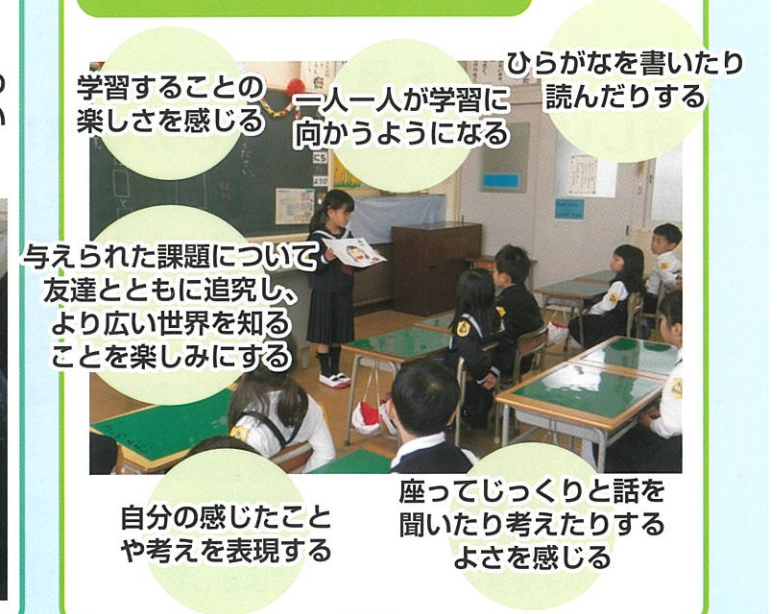
生活科の中で ～学校生活に親しむ単元～



活動の中で見つけた 気付きから、納得して、 学習や生活の習慣を 身に付ける

ゆったりとした時間の 中で学校生活への願い を実現し、学びたい という意欲をもつ

各教科等の中で ～生活科と関連した指導～



学習することの 楽しさを感じる

一人一人が学習に 向かうようになる

ひらかなを書いたり 読んだりする

与えられた課題について 友達とともに追究し、 より広い世界を知る ことを楽しみにする

自分の感じたこと や考えを表現する

座ってじっくりと話を 聞いたり考えたりする よさを感じる